

大村市新幹線フル規格ニュース 創刊号

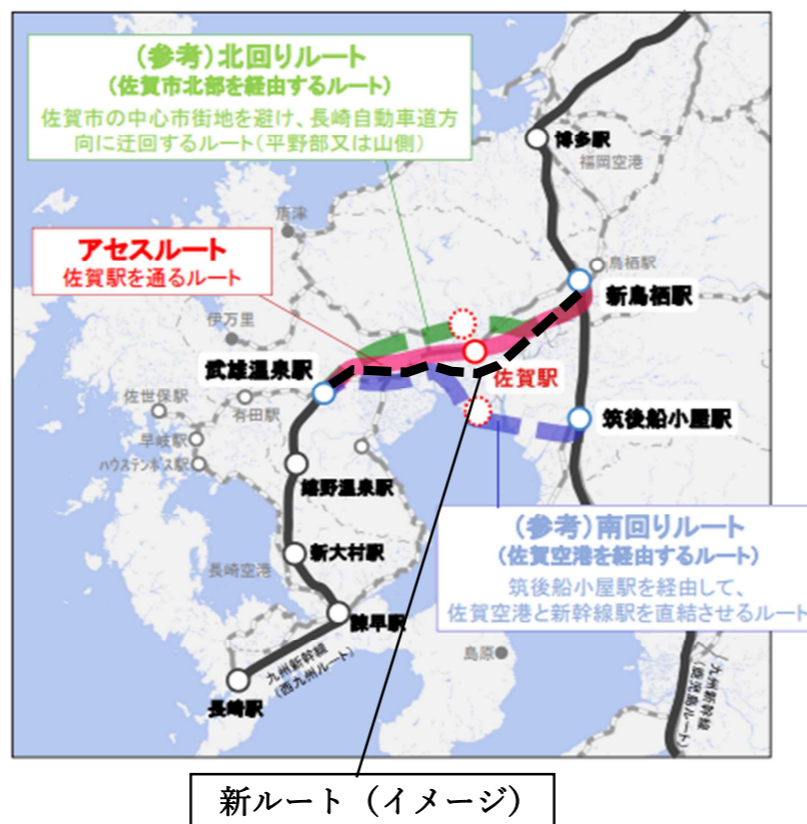


新ルート案浮上！？

未着工区間である武雄温泉～新鳥栖間について、アセスルートと佐賀空港付近を経由する南ルートの間を通す「新たなルート案」が浮上していることが与党幹部への取材で判明したことが11月5日報じられました。

新聞報道によると、最も投資効果が高く「ベストな選択肢」とするアセスルートを推す国交省と、佐賀空港・有明海沿岸道路と連携させたい九州全体の将来展望を期待する佐賀県側との議論が膠着状態にある中で、政府・与党内で、両ルートの間を取った折衷案ともいえる新ルート案が浮上したことで動きが見られ、年内にも与党検討委員会を開き、議論を進める方針であるとのこと。

与党幹部は、「将来的に、福岡空港は容量が限界で、佐賀空港は九州のハブ空港になる可能性がある。」とし、「地盤に問題がない範囲で、佐賀駅よりも南側のルートも考えていこうと言うことだ。」と話しています。



ルートを特定せず、環境アセスメントに着手する方法も・・・

11月6日、武雄温泉～新鳥栖間において、ルートを特定しない形で、環境影響評価（アセスメント）に着手する案が与党内で浮上していることが報道されました。

狙いとしては、与党検討委員会や国交省が推奨する佐賀駅経由ルートと、山口佐賀県知事が評価する「南回りルート」のいずれも包含するよう幅を持たせることで、ルート選択を先送りにしつつも、フル規格での整備に道筋をつけるものとしています。

ルートを特定しないアセス実施案について、与党関係者は、「新鳥栖駅から分岐する形で、佐賀駅を含むルートで幅を持たせてアセスをやることはいいのではないかと説明しています。

佐賀駅と佐賀空港の直線距離は約12kmで、国交省関係者も「アセスを進める中でルートを決めていくやり方はできる。」と話しています。

※環境アセスメントとは・・・
大規模な開発事業を行う場合に、その事業が環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうとする制度

沿線5市で中央要望が実施されました！

11月15日、西九州新幹線沿線5市の市長および市議会議員で西九州新幹線の全線フル規格の実現に向けた中央要望が実施されました。

総務省をはじめとした関係省庁、長崎県および佐賀県選出国會議員等を訪問し、全線フル規格化に向けての円滑な事業推進を望む地元の熱い思いを伝えました。

〈要望内容〉

- ・「全線フル規格」による西九州ルートの整備の道筋を早急に示すとともに、武雄温泉駅での対面乗換の一日も早い解消に取り組むこと
- ・地方負担や並行在来線等、想定される課題の解決に向けた方策を示すこと
- ・新鳥栖・武雄温泉間が早期着工できるよう、関係者の理解を得て早急に環境影響評価に着手すること
- ・九州全体へ新幹線開業効果を波及させるための官民が行う取組への支援拡充を行うこと



→水嶋国土交通審議官への提出



→森山与党PT九州検討委員会委員長への提出

この度、西九州新幹線の全線フル規格に向け「大村市新幹線フル規格ニュース」を発行する運びとなりました。不定期の発行とはなりますが、皆様の情報共有の場としてご活用いただければ幸いです。